

多喜浜校区まちづくり校区集会 開催結果報告書

開催日時	平成23年7月5日(火)	19:00~21:00
場 所	多喜浜公民館	
参加者数	男 66人	女 26人 合計 92人



1. 新居浜市連合自治会設定共通課題

課題名 (主要道路の防災と防犯対策について)

【討議内容】

(質 問)

地域防災力には、防災のための施設等を整備したり、建物の耐震補強など被害軽減のためのハード面の防災力と、個人や地域で住民が災害時に対応活動をして被害の拡大や迅速な復興を行う能力としてのソフト面の防災力があると考えられます。ソフト面では、災害リーダーの適切な指示や、地域住民の適切な防災行動により、被害を少なくしていくことができます。もちろん、災害に備えて防災訓練を実施するなど、ふだんから自主的かつ積極的に予防活動に取り組むこともたいへん重要ですが、これには、費用はさほど必要ないかと思われまます。一方ハード面では、大規模な施設整備や耐震補強には多くの費用が必要で、長期間に渡って継続的な事業が必要です。ここで、もっと身近なところへ目を向けてみると、ささいなことではありますが、停電になっても夜、街灯がつくとか、道路の段差をなくすとか、水路の蓋をかけるとか、避難時には大変重要なことで、地域の防災力の向

上につながっていくと思います。そこで、多喜浜校区内で、幹線道路でありながら、街灯が整備されていない道路について、街灯の整備を行っていただきたいと思います。ハード面の中では、さほど費用がかからない内容ですが、大きな効果が得られると確信しております。

- 1.多喜浜3丁目のローソン多喜浜店から太鼓大橋までの区間に街灯の整備をお願いしたい。
- 2.多喜浜6丁目の市道八間堀南通り線に街灯の整備をお願いしたい。

(回 答)

お答えの前に防災のお話をしたい。災害派遣ということで、釜石市に職員派遣をしている。現在行っているのは保健師の派遣と支援の職員の派遣を2人1組で行っている。募金も市内各団体を通じて2500万円あまりしている。物資も送らせていただいた。防災というと自助・共助・公助いろいろ活用してやっていくということである。

津波の被害ということで、瀬戸内海には、南海・東南海地震で震度5から6を想定されている。満潮などの悪条件がそろると、市内でも浸水するところがあると予測されているが、国で想定しなおすことになっている。

要援護者の支援の方針は現在策定中である。防災行政無線の設置はこの春に行った。市の放送が聴ける設備が整備済みである。水位の観測カメラの設置、民間との応援協定なども完了している。砂防、土砂対策の工事を実施、学校の耐震、また、防災ではないが、今年熱中症予防のために自治会館の活用を考えている。電気代(増加分)は市が出します。

市の道路についての考え方は、交通安全対策上の照明、交差点や橋梁部、カーブなど道路通行上危険度の高い箇所へは設置ということであるため、防犯灯などは地域の防犯活動の中でやっていただくということと考えている。したがって、街路灯をすべてのところに付けるということにはなっていない。先日、現地も確認したが、道路照明ということに設置はしていないということである。

バリアフリーとか道路の修繕ということではやっていくということであり、防犯という観点で街路灯を設置するということにはなっていない。

連合自治会長： 上部地区などは住友の旧社宅あたりに非常に明るい街灯がついていたりするので、多喜浜地区についても、今後は考えていただく必要があるのではないか。

2. 校区設定市政課題

課題名 (東浜から荷内地区における交通安全対策について)

【討議内容】

(質 問)

県道の壬生川新居浜野田線は、多喜浜校区を横断する幹線道路で、交通量が大変多く、大型車も多く走っています。道路の特徴として、ほぼ直線で見通しも良いことから制限速度時速50kmのところ、大半の車が制限速度を超えるスピードで走っており、また追い越し禁止区間でないので、無理な追い越しをする車も多くあります。このため、地区内に入るため停車していると、追突されたり、右折の指示器をだしていても追い越しをされたり大変危険な目にあっています。特に阿島川にかかる橋は、高くなって見通しが悪いため、橋を渡ったところで、切抜自治会に右折するため停車している場合は、非常に危険な状態となっています。先日も、右折で停車している車の後続車が止まっていたましたが、その後ろから保冷車がノーブレーキで追突し負傷者がでたところです。なんとか、安全な通行ができるよう対策をして欲しい。

- 1.阿島1丁目のマリロードから荷内川くらいまでは、周辺に多くの住宅があるので、住民が安全に出入りできるよう、制限速度を現在の50kmより下げて欲しい。
- 2.また同じ区間において、追い越し・はみ出し禁止の規制をかけて欲しい。
- 3.以前は、速度の取り締まりを行っていたが、最近は行っていないので、取り締まりの強化や定期的取締りができないか？

(回答)

ご要望のありました県道壬生川新居浜野田線（阿島一丁目マリロード～荷内川）の安全対策につきまして、規制を管轄する新居浜警察署に確認いたしましたところ、「要望箇所における過去の交通事故の発生状況や事故原因、周辺の交通規制との整合性及び交通実態の現状を確認したうえで、新たな交通規制の実施や交通規制の強化について必要か否かを判断し、必要と認められる場合には公安委員会に交通規制を要請することになります。」との説明でした。交通規制要望につきましては、規制種別、要望理由及び規制区間を特定できるように位置図を添付し、要望団体名で文書による要望書を提出していただくこととなりますが、詳細等について確認するためにも要望書を作成する前に、新居浜警察署（担当：交通課）までご相談してほしいとのことでした。なお、現場周辺での速度取り締まりにつきましては、これまでも実施しているところであるが、今後も引き続き実施し、交通秩序の維持に努め安全快適な交通環境を確保していきたいとの回答をいただきました。

連合自治会長：文書でということですのでそのようにお諮りください。

※ 再検討事項

なし

3. 地域課題

課題名（ 白浜西地区の水路改修について ）

質疑応答

(質問)

白浜遊水池と白浜ポンプ場につながっている水路は、勾配が悪いのか水量が少ないときは、流れが悪く滞留し、悪臭が発生して困っています。流れが良くなるよう改修ができないか？またできない場合は、バキューム車による清掃を少なくとも毎年1回は実施して欲しい。

(回答)：市長

先日現地を見せていただいた。水路断面を確保し、勾配を良くするのは困難であることから、バキューム車による清掃を年1回実施しているところである。

※ 再検討事項

市長：現地も見たが、全体的な水の流れを考えて、技術的な検討をします。今回は流れが悪く悪臭の問題であるが、浸水の問題がある地区もあるので、全体的な優先順位も考慮しながら検討したい。

連合自治会長：以前からの話であるし、白浜地域の長年の課題であったのでどうにかしたい。

3. 地域課題

課題名（阿島川の堆積土砂の撤去について）

質疑応答

(質問)

校区で第2日曜日に多喜浜校区内の環境美化に努めている。ごみ減量課に大きい看板を貰えないか要望したが、予算がないと言われたので、連合自治会でこしらえ、7月の海の日に設置することになっている。中元クリーニングの横でも、ゴミの不法投棄が目にする。空き缶だけを分別していたら中からおむつが出てきた。海に捨て、川に捨て、山に捨て、道に捨てる。

阿島川は平成16年の災害のときに土石流が流れ込み、周辺地域に大災害を引き起こしました。現在でも多くの土砂が堆積しており、少し雨が降ると氾濫して災害の危険があります。愛媛県では、毎年、気持ち程度の土砂撤去しかしてくれてないので、早期に完全撤去をお願いしたい。同時に、河川堤防をかさ上げして大雨が降っても、大丈夫なよう対策して欲しい。

(回答)：環境の面で言いますと、海の日に「瀬戸内海の道ネットワーク推進協議会」が

清掃をすることになっている。看板については、感謝したいと思う。

阿島川の土砂撤去については、8月初めに入札し、今年も実施されると聞いている。堤防かさ上げについては、今年度調査し、実施できるか検討すると聞いている。内容がわかっただらお知らせしたい。

※ 再検討事項

(質 問)：県の土砂撤去はいつできるのか？何mか？川下から連続してやってもらいたい。

(市 長)：8月には入札をすると聞いている。規模がわかっただらお知らせする。

(来場者)：阿島川の土砂を取ると、海にゴミが流れ出る。渡海船も困り、漁師も困る。以前港務局に連絡したが、見に来たがそれっきりだった。海にゴミが流れ出ないようにしてほしい。

4. その他

(質 問)：阿島の下水整備の予定はどうなるのか？

(市 長)：公共下水については、現在56%の普及率である。一定の期間の中で整備してゆく認可区域を決めて費用負担してもらってということになる。最終的には、阿島も公共下水道で整備する計画であるが、当面は整備予定区域でない。計画区域外の地区では、合併浄化槽の補助を設けるなどの対応をしている。

【市長まとめ】

①東浜公園の完成式に呼ばれていたのに、土砂降りで挨拶できなかったが、地元の協議会に大変お世話になったこと、近くの小学生から手紙をもらった、式典で紹介しようと思っていたができなかったので、お知らせしておく。②昨年のまちづくり校区集会では、見守り推進員の話が出た。推進員の数、対象者などの話があり、今年度からは、推進員の数を209人から259人に増やし、強化している。対象者についても協議しているところである。

③大島渡海船が新造船になるため、旧渡海船を今回の震災で被災した気仙沼への無償提供を考えている。また、県主導で修学旅行生の受け入れを考えているところである。4校くらい決まっている。

地域課題については、実現できることできないこととあるが正直に説明をしながら、県・警察の関係になると歯がゆい部分もあるが、これからもお話を続けてゆきたい。

【連合自治会長】：このように多くの住民の皆さんの参加をいただきお心よりお礼を申し上げます。多喜浜校区には、常々3つの宝物があると考えている。ひとつには、江戸時代からの歴史を持つ多喜浜塩田、二つには平成16年災害にも負けず復活した地域力、三つにはふるさとを愛し、未来を担う子供たちです。特に最近の子供たちは、立派になり防災塩

田学習などで活躍してくれている。また、みんなで考案した「ソルティちゃん」も大好評である。「塩田」、「住民」、「子供たち」この3つを結びつけた多喜浜校区は将来に向け飛躍するものと考え、地域の誇りでもある。ソルティ多喜浜では塩田巡りなどいろいろな活動が行われている。これまでは点で終わっている。これからは、それをつなぐため「場」づくりが必要と考えている。みんなで知恵を出し合いまとめ上げなければいけない。そのためには、行政からのメンバーも交え協働のまちづくりの夢を実現する。市長にもご理解いただき、今後ともよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。